

【概要版】

福知山市立学校教育改革推進プログラム 後期計画

(平成28年度～平成32年度)

福知山市教育委員会

【福知山市立学校教育改革推進プログラム前期計画（平成23～27年度） 5年間の振り返り】

教育基本法や学校教育法の改正により、教育の目的や目標が見直され、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」や「それを活用した思考力・判断力・表現力」、「学習意欲」を学力の重要な3要素としました。全国的な傾向でもありますが、本市でも活用力についての課題が見られ、学校では、その育成のための授業改善が進み、授業や指導形態が工夫され、「学び方を学ぶ」といった、よりアクティブな学習に向かって教育環境が整ってきています。

また、本市では「保幼小中一貫・連携教育（シームレス学園構想）」を中核とした様々な施策や取組により、「確かな学力・質の高い学力（知）」「豊かな心（徳）」「健やかな体（体）」の調和のとれた育成を図り、社会の変化に対応できる「生きる力」を備えた人材を育てることをめざしてきました。

次に、「市立学校の再編」では、「保護者、地域住民の理解と協力を得て進めることが大切なこと」「子どもたちの成長を考えるとできるだけ早い対応が必要なこと」から要望のある地域の学校を早期に進めることを基本方針として、複式学級の解消を念頭におき、学校再編を進めてきました。

前期計画からの市立学校の再編の状況は、平成25年度に、精華小学校・育英小学校・明正小学校の旧夜久野3小学校を統合し、夜久野中学校との、本市で初の施設一体型小中一貫校である夜久野学園（通称）が開校しました。

また、平成26年度末をもって川合小学校が細見小学校と、三岳小学校が上川口小学校と統合し、前期計画最終年度となる平成27年度の学校数は、小学校で22校、中学校で9校となっています。

いずれの学校再編も地元の要望を受け、保護者、地域住民の理解と協力を得ながら、丁寧に協議を進め円滑な統合を図ってきました。



1 学校教育を取り巻く状況

○ 福知山市の現状と社会状況

人口の減少と少子高齢化、過疎化に伴っての学校の小規模化、高度情報化、経済状況の悪化など、社会状況や家庭状況が大きく変化する中、公教育においてすべての子どもたちに、基礎基本となる学力の定着や学ぶ意欲の向上、時代の変化に適応した教育を推進し、一人一人の子どもたちがもつ可能性を広げ、夢をもち、夢を実現できる力を育てることが重要です。また、様々な体験を通して周りの人々とつながり、自尊感情を高め、コミュニケーション能力を育成することも求められています。

○ 本市の子どもたちの状況

（学力・学習の状況について）

平成27年4月に実施した全国学力・学習状況調査によると、本市の小学6年生においては国語、算数、理科ともに全国平均を上回っています。中学3年生においては国語は全国平均を上回っていますが、数学と理科は全国平均を下回っています。小・中学生のいずれも、全国的な傾向と同様、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する能力にやや課題が見られます。

（生活習慣について）

普段30分以上読書をしていると答えた割合が、小・中学生ともに全国に比べて低く、普段1時間以上家で学習していると答えた割合が、小学生では全国よりやや上回っているものの、中学生では下回っています。また、中学3年生で、スマートフォンや携帯電話を持っている生徒の割合は全国平均よりやや低い反面、通話やメール、インターネットを1日あたり1時間以上すると答えた生徒の割合は、全国平均よりやや高いという結果でした。

（意識の面について）

「ものごとを最後までやりとげ、うれしかったことがある」といった自己実現の感情については中学生で全国をやや下回り、また「自分にはよいところがある」といった自尊感情については、小・中学生ともに全国よりも高くなっています。また、「人の役に立つ人になりたい」という他者貢献の意識についても、小学生では全国より高く、中学生でやや低くなっています。

（貧困化の状況について）

平成26年5月1日現在で、市内小中学生の保護者世帯の内、要保護世帯と準要保護世帯をあわせた保護世帯率は21%となっており、5世帯のうち1世帯は援助家庭ということになり、子どもの貧困化が懸念される状況です。

（心身の発達について）

文部科学省の学校衛生統計及び学校保健統計調査によると、身長や体重の平均値で、学校衛生統計が始まった昭和23年度の男女の平均値と平成26年度の男女の平均値を比較すると、およそ2～3歳の身体的な発達の早期化が見られます。

また、文部科学省の児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査（平成25年）によると、暴力行為の加害児童生徒数、いじめの認知件数、不登校児童生徒数はいずれも中学1年生段階で急増しています。【中1ギャップ】

このような心身の発達の早期化や規範意識の低下は、本市の子どもたちにとっても例外ではなく、子どもたちの身体的、精神的な発達に応じた教育が必要であるといえます。



2 教育内容の充実【後期計画】

福知山市教育目標

「自分のために(自己実現) 人のために(他者貢献) 社会のために(社会貢献)
共に幸せを生きる人材の育成」

知・徳・体をはぐくむ 「シームレス学園構想(保幼小中一貫・連携教育)」の推進

①確かな学力を育てる教育の推進

- ・特色あるシームレス教育の推進
- ・幼児教育の充実
- ・基礎的・基本的な指導の充実
- ・読書活動の充実
- ・アクティブ・ラーニングの活用 など

②一人一人を大切にし、個性や能力を伸ばす教育の推進

- ・キャリア教育の推進
- ・特別支援教育の推進
- ・小規模校及び複式形態の特性を生かした教育活動の推進
- ・21世紀型能力の育成 など

③豊かな人間性と社会性を育てる教育の推進

- ・道徳教育・人権教育の充実
- ・いじめ・暴力行為の未然防止
- ・不登校の未然防止
- ・京都式「ふるまいの教育」
- ・コミュニティ・スクールの導入促進 など

④健やかな体を育てる教育の推進

- ・食に関する指導の充実
- ・安全教育と安全管理の充実
- ・危機管理体制の強化
- ・体力・運動能力の向上 など

⑤社会の変化や現代的課題に対応する教育の推進

- ・ICT教育
- ・グローバル人材の育成
- ・子どもの貧困対策
- ・主権者教育 など

⑥魅力ある学校・園・学園づくりと教職員の資質能力の向上

- ・「チーム学校」としての体制整備
- ・人材育成、教職員研修
- ・「義務教育学校」の設置 など

3 学校の小(過小)規模化と学級の少人数化の状況と課題

文部科学省の平成27年度学校基本調査によると全国の小・中学校の在籍者数はいずれも過去最低を更新し、全国的にも少子化の流れをたどっています。

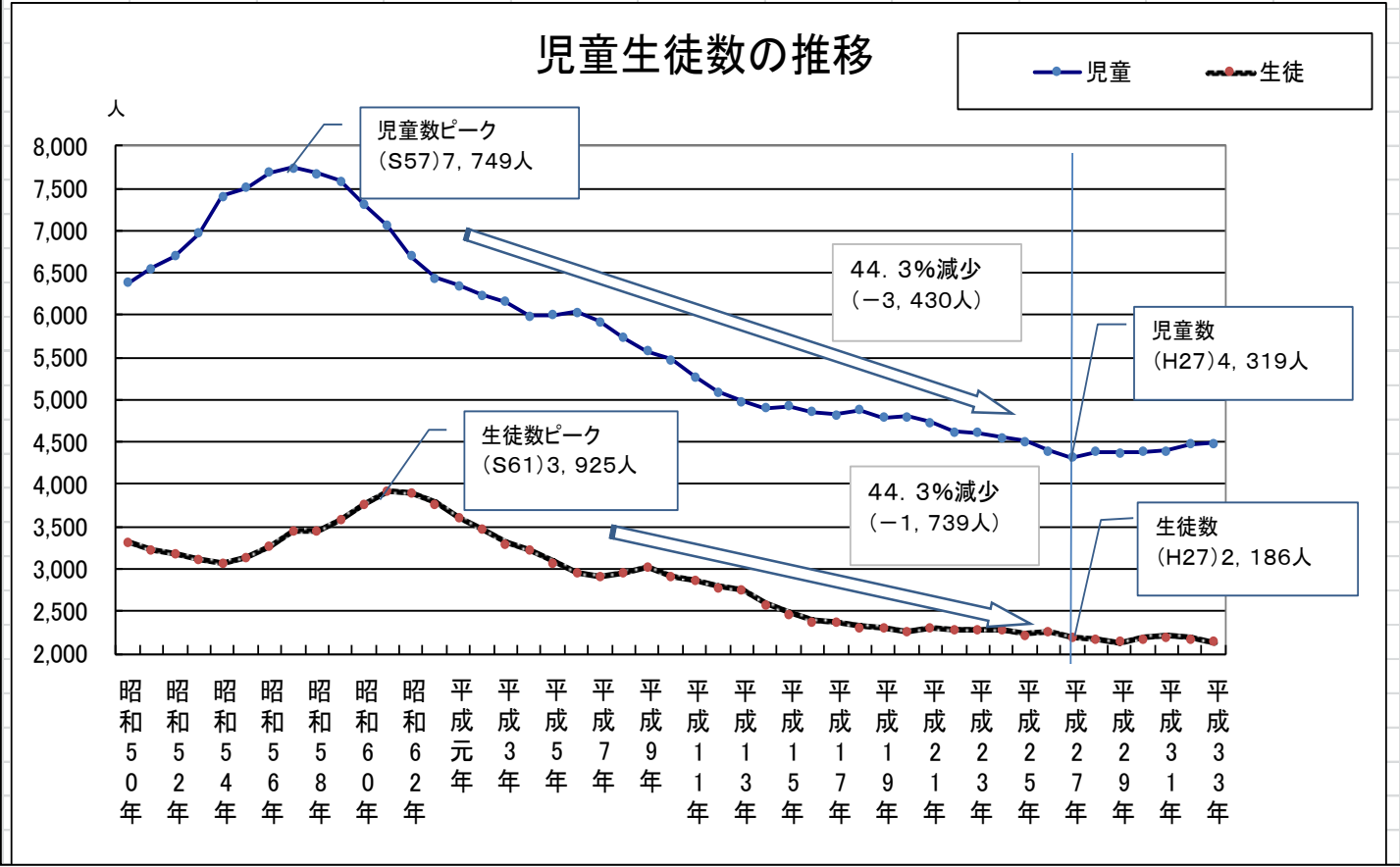
本市においても、平成27年度の児童生徒数は小学校4,319人、中学校2,186人で、児童生徒数の第2次ピーク時(小学校:昭和57年7,749人、中学校:昭和61年3,925人)と比較すると、ともに第2次ピーク時の約56%となっています。

また、平成27年度の本市の複式学級設置校は小学校で7校、中学校にはありません。平成33年度には、小学校で新たに2校を加えた9校が複式学級設置校となることが見込まれ、さらに2つの複式学級が設置される学校や在籍児童のいない学年(欠学年)がある学校が出現し、特に市の周辺部の学校の小規模化が進むことが予測されます。

文部科学省「公立小・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」では学級数や児童生徒数が少ないこと、教職員数が少ないことによる学校運営上の課題が児童生徒に影響を与える可能性について示されており、本市においてその課題を解消するためには、学校を再編する必要があると考えます。



福知山市児童生徒数の推移(昭和50年～平成33年)



児童生徒数と学級数の推移(平成27年5月1日現在 住民基本台帳による)

は複式学級が設置、または設置が見込まれる学校(平成28年度以降は、府基準より算出)
は複式学級が2学級 ※ 斜体は欠学年あり(平成29～30年度まで金谷小は欠学年が2学年)

学校名		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度	
		児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数
児童数	惇明小	542	20	588	21	600	21	638	22	640	22	667	23	660	23
	昭和小	628	23	634	24	654	24	664	24	694	24	722	25	731	26
	大正小	379	14	395	14	415	15	412	15	417	15	423	16	427	16
	雀部小	492	19	507	19	483	18	502	18	506	18	510	19	506	19
	庵我小	99	6	103	6	94	6	91	6	87	6	85	6	90	6
	修斉小	400	14	388	13	372	13	356	12	345	12	343	12	339	12
	遷喬小	284	12	292	12	317	12	320	12	348	12	365	12	378	12
	天津小	29	5	30	5	35	5	32	5	28	5	25	5	23	4
	上豊富小	103	6	98	6	100	6	101	6	100	6	94	6	91	6
	上六人部小	39	5	36	5	30	4	26	4	25	4	29	5	33	5
	中六人部小	34	5	30	5	31	5	30	5	28	5	25	5	20	4
	下六人部小	382	14	373	13	372	13	378	13	354	12	366	12	372	12
	上川口小	95	6	99	6	92	6	92	6	83	6	83	6	78	6
	金谷小	26	4	28	4	21	3	17	3	19	3	15	3	19	4
	佐賀小	28	5	28	5	29	5	28	5	28	5	26	5	23	4
	成仁小	358	13	359	13	335	12	332	12	334	12	333	12	336	12
	菟原小	38	5	39	5	46	5	43	5	39	5	38	5	40	5
	細見小	66	6	64	6	61	6	51	6	52	5	46	5	46	5
	夜久野小	99	6	95	6	93	6	87	6	91	6	97	6	94	6
	美河小	124	6	126	6	125	6	123	6	117	6	126	6	129	6
	美鈴小	30	5	33	5	31	5	27	5	26	5	24	4	21	4
	有仁小	44	5	41	5	40	5	37	5	40	5	39	5	29	5
	合計	4,319	204	4,386	204	4,376	201	4,387	201	4,401	199	4,481	203	4,485	202
生徒数	桃映中	229	7	234	7	228	7	241	8	247	8	254	8	237	7
	南陵中	531	15	532	15	554	15	548	15	580	16	592	17	622	18
	成和中	302	9	302	9	271	9	280	9	265	9	270	9	252	9
	六人部中	233	7	242	8	234	7	234	7	238	7	227	7	221	7
	川口中	72	3	71	3	69	3	64	3	65	3	55	3	57	3
	日新中	574	15	566	15	588	16	597	16	603	16	576	15	565	15
	三和中	64	3	53	3	41	3	51	3	52	3	64	3	53	3
	夜久野中	78	3	70	3	65	3	60	3	48	3	43	3	39	3
	大江中	103	3	101	3	97	3	103	3	104	3	99	3	95	3
合計	2,186	65	2,171	66	2,147	66	2,178	67	2,202	68	2,180	68	2,141	68	

○ 学級数や児童生徒数、教職員数が少ないことによる学校運営上の課題が、児童生徒に影響を与える可能性（文部科学省「公立小・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」より）

- ・ 集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重する経験を積んだりしにくく、社会性やコミュニケーション能力が身に付きにくい。
- ・ 児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすく、また、教員への依存心が強まる可能性がある。
- ・ 協働的な学びの実現が困難となる。
- ・ 教員それぞれの専門性を生かした教育を受けられない可能性がある。
- ・ 切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい。
- ・ 進学等の際に大きな集団への適応に困難を来す可能性がある。
- ・ 多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れることが難しい。
- ・ 多様な活躍の機会がなく、多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しい。



4 学校の適正規模・適正配置における市立学校の再編【後期計画】

後期計画では、前期計画で示した基本方針や市立学校の現状と今後の推移を踏まえ、加速する児童数の減少と学校の小規模化に対応する教育環境の改善を早期に図ることとし、保護者と地域住民の理解と協力を得ながら、教育の機会均等の確保と教育効果を高めるために、平成32年度までを目標に、できるだけ早期に学校再編を進めます。

○ 後期計画における基本的な再編の進め方

- ① 子どもたちの成長を考えるとできるだけ早い対応が必要なこと
- ② まずは、保護者の理解を得た上で、地域住民の理解と協力を得て進めることの視点を踏まえ、要望のある地域の学校から進めることとします。

○ 学校再編等に係る後期の実施計画における視点

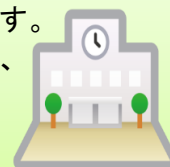
- ・ 複式学級を解消し、各学年に単学級を確保する。その上で一定の学級規模（20名程度）を確保し、学び合いを高めることをねらいとする。

平成33年度までに複式学級の設置が見込まれる学校 （※複式学級設置校など4学級以下の学校）	再編が考えられる相手校	
	中学校区の小学校	
天津小学校（※）	修斉小学校	成和中学校区
上六人部小学校	中六人部小学校 下六人部小学校	六人部中学校区
中六人部小学校（※）	上六人部小学校 下六人部小学校	
金谷小学校（※）	上川口小学校	川口中学校区
佐賀小学校（※）	遷喬小学校 成仁小学校	日新中学校区
菟原小学校	細見小学校	三和中学校区
細見小学校	菟原小学校	
美鈴小学校（※）	美河小学校 有仁小学校	大江中学校区
有仁小学校	美河小学校 美鈴小学校	

- ・ 夜久野学園で培った教育活動の成果を生かし、小中一貫校の制度化に応じて、学校規模や地理的要件が適した三和地域・大江地域に「義務教育学校」の設立をめざす。
- ・ 児童生徒が安心安全に学ぶことができる学校の立地条件の整備を優先課題とし、よりよい学習環境を確保する。また、再編対象校を柔軟かつ総合的に検討する。
- ・ 社会総がかりでの教育の実現に向けたコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入を進める。
- ・ 教育の機会均等を確保する観点から、小規模校のメリットを最大限に生かすとともに小規模校のデメリットを緩和する方策を講じる。

5 長期的な視野に立った福知山市の学校の在り方の検討

この「後期計画」は、平成28年度から平成32年度までの5年間を見通した計画です。その後のさらなる少子化など長期的な展望において、学校規模の状況や児童生徒数の将来推移、後期計画の進捗状況などを踏まえ、本市の学校教育の在り方や新たな再編計画を検討することが必要となります。そのための諮問機関として、平成31年度に「第2次福知山市学校教育審議会」を立ち上げ、本市の学校教育のあり方や新たな再編計画について、様々な可能性を踏まえ、継続した検討を行います。



○ 夜久野・三和・大江に設置をめざす「義務教育学校」ってどんな学校？

文部科学省は、学校教育法等の一部を改正し、小中一貫教育を行う新たな学校の種類を制度化し、平成28年度から小中一貫教育を実施することを目的とする「義務教育学校」を設けることとしました。

これまでの小中一貫校では、小学校における教育と中学校における教育を円滑に接続させるため、教育課程特例制度を活用し、独自の教科を設けたり、義務教育9年間を見通した教育課程として「4・3・2」の学年段階の区切りを設定したりして、カリキュラム編成や指導の工夫を行っていました。

さらに、義務教育学校では、1年生から9年生までの児童生徒が一つの学校に通うという特質を生かして、中学校の学習内容を小学校段階で先取りして指導したり、教育内容の実施学年を入れ替えたり、独自教科（1～9年生まで一貫した教科の設定…例えば「英会話科」「言語科」「ふるさと探究科」など）を設けたりすることも可能です。小中一貫校であるため、教員は、小学校と中学校の免許状を併有することを原則（当分の間は例外あり）としており、子どもたちの9年間の学びを、校内の全教職員でめぐんでいくこととなります。

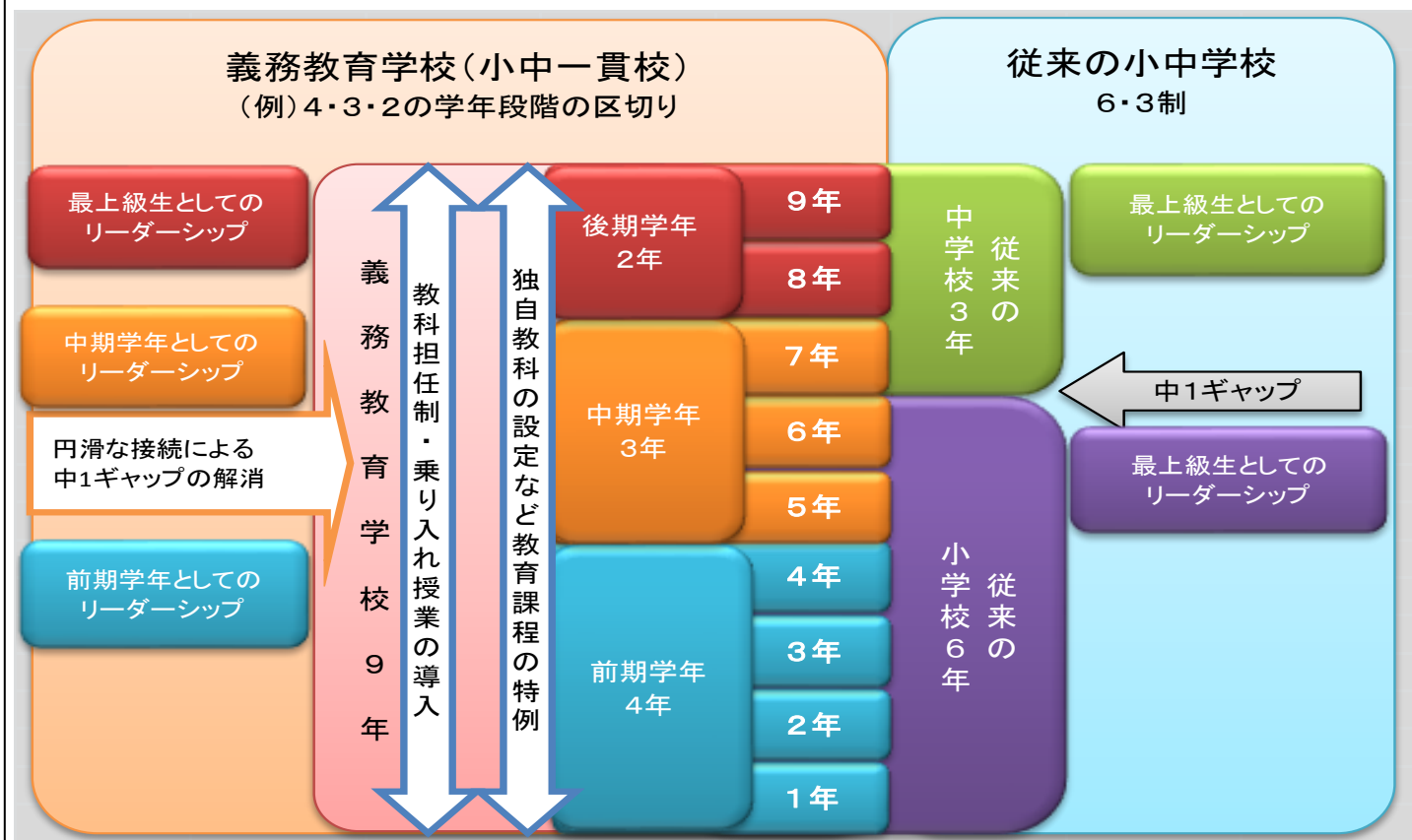
Q 小学校6年生のリーダーとしての活躍の場はどうなるの？

A 従来の小学校では、最上級生の6年生が、学校行事等でリーダーシップを発揮する学年になりますが、義務教育学校（小中一貫校）においては、「4・3・2」の区切りとした場合、前期・中期・後期学年の各段階での最上級生（4年・7年・9年）が各学年においてリーダーシップを発揮する学年となります。その他の学年においても、意図的な活躍の場を設定することで、9年間を通した学校生活の中で、多様な成長の場面を創出することができます。6年生で迎える卒業式（小学校課程の修了証書の授与）を行うことも可能です。

Q 小中一貫教育による「中1ギャップ」解消への効果は？

A 児童が、小学校から中学校へ進学する際、新しい環境での学習や生活にうまく適応できず、不登校や問題行動等につながっていく事態を「中1ギャップ」といいます。義務教育学校では、従来の6・3制を「4・3・2」などの学年段階の区切りとして、5・6年生を中心に、教科担任制（例えば算数科や外国語活動で中学校の先生の授業を受ける）や50分授業（小学校は45分）など中学校での学習形態を先行的に経験したり、中学校の先生から授業や部活動の指導を受けたりすることで、進学に伴う児童の不安を緩和すると共に、児童生徒の情報を校内の全教員が共有し、指導に生かすなど、小中学校間の円滑な接続による「中1ギャップ」解消へのより高い効果が期待されます。

（本市では、従来から「シームレス学園構想（保幼小中一貫・連携教育）」により、中1ギャップの解消に努めています。）



～お問い合わせ～

〒620-8501 福知山市字内記13番地の1（内記3丁目） 福知山市教育委員会 教育総務課
TEL 0773-24-7061 FAX 0773-24-4880 E-MAIL kyouiku@city.fukuchiyama.lg.jp